災害時の行動について知り、地域の防災を引っ張る人になろう！

ネイパル厚岸

防災×キャンプ

1　事業のねらい

地震や津波などのメカニズムについて学ぶとともに、災害時の備えや過ごし方などを知り、実際に災害が起きたときに適切な行動ができるようにする。

2　事業の概要

■期日　R６.10.５(土)～10.６(日)　１泊２日
■対象　小学３年生～小学６年生
■人数　25 名
■場所　ネイパル厚岸、厚岸町生活改善センター、厚岸町
■協力　北海道教育大学釧路校教授　境　智洋氏、厚岸町危機対策室

3　プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10/5(土)	集合:厚岸町生活改善センター 受付:9:45～				開会式	津波について学ぼう【厚岸町生活改善センター】	昼食 ※弁当持参	ハザードマップラリー 振り返り【厚岸町内・ネイパル厚岸】				避難所の設営を体験してみよう！【体育館】	防災×キャンプ ご飯&お菓子&飲み物づくり 1日の振り返り【工作広場】		入浴 自由時間	就寝準備	就寝

10/6(日)	起床 洗面	片付け【体育館】	朝食【食堂】	片付け 荷物まとめ【体育館】	防災小説【工作室】	振り返り【工作室】	閉会式

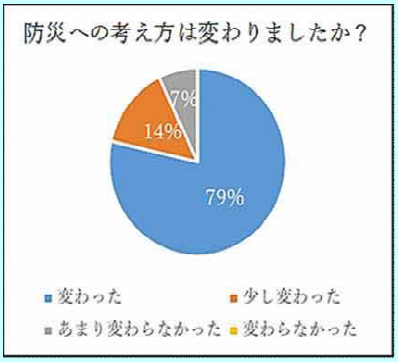
4　ねらいを達成するための活動の工夫

■地震や津波のメカニズムを学ぶためのプログラム
・地震や津波についてのスペシャリストである北海道教育大学釧路校の境教授による講義や津波実験装置を使った実験で、体験的に津波を学んだ。また、その講義を受けた上でのハザードマップラリーを設定し、厚岸町がどのような対策をしているかを見て回った。
■災害時における行動（「住」「食」について）を学ぶための体験活動
・段ボールベッドと間仕切りテントを使用した避難所設営体験で災害時にどのような状況で過ごすのかを体験
・長期保存が可能なものを使った、晩ご飯・デザート・経口補水液作りを通し、災害時の「食」について、水をなるべく使わない工夫や日頃からの備えの大切さについて学んだ。

教育大学境教授による津波実験装置を使った講義

5　事業の評価

■参加者アンケートから
「地震や津波から自分や周りの人を守ろうとする「防災」への考え方は変わりましたか？」の問いに、アンケート回答者 16 名中 12 名が「変わった」、２名が「少し変わった」と、ほとんどの参加者が事業を通して変わったと回答した。
■参加者の様子
「地震や津波のときどうすれば良いか分かった」「より高いところに避難して、と他の人に言えるようになった」「いつ来ても大丈夫なように備えようと思った」といった災害についての意識の高まりが見られた。



段ボールベッドの組立

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●地震や津波の講義や避難所設営体験を通して、災害が身近なものであるということがわかり、災害に備えることの大切さを意識することができるようになった。
○様々な体験活動から得た知識や経験を深めるために行う事業のまとめは、対象に合った内容を工夫する必要がある。

企画のポイント

講義や体験活動を通し、災害時に取るべき行動を知り、災害が実際に起っても適切な行動を取ろうとする意識が芽生えるプログラム